

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------|------------|--|
| 事業所番号 | 0290100056 | | |
| 法人名 | 有限会社サン・ショウ | | |
| 事業所名 | サングループホーム横内 | | |
| 所在地 | 青森市横内字若草13-2 | | |
| 自己評価作成日 | 平成31年3月27日 | 評価結果市町村受理日 | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <p>①事務所専任の薬剤師による服薬管理及び相談 ②広大な畑で野菜を育てて収穫する ③天然温泉を入浴に活用 ④天然木をふんだんに使用し、居心地の良い空間 ⑤AED設置 ⑥多方面の協力体制の充実(他グループホーム、町会、消防団、大学等) ⑦地域包括支援センターとの独自の協力体制</p> |
|--|

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 青森県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 青森県青森市中央3丁目20番30号 |
| 訪問調査日 | 令和1年11月30日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>敷地が広く、木々を植えており、休憩できる場所を整備しており、気持ち良く散歩できる広い庭がある。館内も広々としており、母体法人が製薬会社ということもあり、衛生面に配慮して次亜塩素酸ナトリウムの加湿器を設置する等、健康面についても十分に配慮している。食事は手作りで地元の食材や献立にこだわり、毎食、美味しい食事を提供している。 訪問者が多く、地域との関わりが強く、運営推進会議や避難訓練等に地域住民が参加して、町内の行事にホームからも参加する等、積極的に交流を行っている。 介護福祉士養成校の実習生を受け入れ、就職に繋げ、現場で育てる仕組みがあり、職員にとっても働きやすい職場になっており、安定したサービス提供を行っている。</p> |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 全職員は理念を共有し、毎日の生活の中に反映させていけるよう、互いに声を掛け合いながら協力しています。 | 地域密着型サービスの意義を踏まえた開設時からの理念があり、理念を館内の見える場所に掲示し、会議等で読み上げ、職員一人ひとりが意識してサービス提供の実践に繋がっている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 近隣の大学から実習生の受け入れや他施設の行事、町内活動等に積極的に参加しています。 | 町内活動が活発な地域であり、町内会に加入して町内行事に職員や利用者も一緒に参加する等、利用者が地域と繋がりが暮らし続けられるよう、日常的に交流を図っている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 近隣の大学からの実習生や音楽ボランティアの受け入れと共に、認知症の理解を深めていただいています。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 利用者の状況や行事等の報告、相談、身体的拘束等の適正化について検討等を行っています。 | 2ヶ月に1回、定期的に運営推進会議を開催して、利用者の状況やサービス提供、自己評価及び外部評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを活発に行い、会議での意見をサービス向上に活かすように努めている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 自己評価及び外部評価結果や運営推進会議の結果を報告したり、職員も必要に応じて出向いて連携を図っています。 | ホームの運営等で市担当者と連絡を取り、相談する等、頻繁にやり取りをしている。パンフレットや自己評価及び外部評価結果についても市へ提出し、ホームの実情や取り組みについて積極的に伝え、協力関係を築いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体的拘束適正化検討委員会を発足し、有識者の意見を求め、職員に周知して、年2回以上の研修を行っています。 | 身体拘束適正化委員会を設置しており、定期的に身体拘束について検討する仕組みを整えている。居室や玄関等の施錠はせず、やむを得ず行う場合に備えてマニュアルや同意書、記録様式を整備している。職員は身体拘束をしないケアのため、内部研修を行い、正しいケアについて学んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待について研修への参加や勉強会を行い、常に勤務の中で声がけをして、虐待にならないかどうか意識しています。迷った時には身体的拘束適正化検討委員会に相談できる環境があります。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 外部、内部研修を行い、理解を深め、制度を必要とする時に支援できるように取り組んでいます。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 利用者や家族、ケアマネージャーから情報を収集して、相互に理解を深めるように努めています | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族とコミュニケーションを取りやすい環境や方法を整えたり、運営推進会議への参加をお願いしたり、ホーム内に苦情受付窓口や外部の受付窓口を提示して、家族が意見を出しやすいようにしています。 | 運営推進会議に家族等が参加して、意見や要望を管理者や職員、外部へ話す機会を設けている。また、苦情処理の仕組みについて重要事項説明書に明示すると共にホーム内に掲示しており、利用者も意見を出すことができ、出された意見や要望は日々のホームの運営に反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 日常的に対話の場を設け、全職員より意見や提案を求め、より良い環境作りや人間関係作りに取り組んでいます。 | 年2回ホーム全体の会議があり、職員から意見や提案を出す機会を設けている。また、毎月ユニット毎の会議があり、ホームの運営に反映するように努め、毎日の申し送りの中でも意見を出せる機会を作っている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 日常的に対話の場を設け、全職員から意見を求め、より良い環境作りをするように心がけています。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修会や勉強会には、全職員が参加できる体制作りをしています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域のグループホーム部会への参加や行事参加、見学、研修等を通じて、意見を交換して、サービスの質を向上させていく取り組みをしています。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に訪問や面談をすることで、本人や家族の意向を聞き取り、安心して暮らせるように支援しています。また、入居後は介護職員の担当を決めて細やかなサービスを心がけています。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 事前訪問をして、家族と十分に話し合い、情報提供していただき、一番望んでいる事を提示できるような関係作りに努めています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談時、聞き取りによる適切な状況判断により、支援サービスが受けられるように関係機関との連携を図っています。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者を人生の先輩、家族の一員として、相互の信頼関係を結べるように努力し、支援しています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族との連絡を密にして、利用者の情報提供を通じて、意思疎通を図り、職員の意思統一を進め、お互いに何でも言える関係作りをしています。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 利用者の要望を基に、馴染みの人に積極的に足を運んでもらうように声かけをして、来苑していただける環境作りに努めています。 | 利用者の入居前の生活歴を把握して、利用者が大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れることがないよう、友人と電話で連絡を取ったり、住んでいた自宅まで外出をする等、希望に応じて支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者個々の性格を職員が把握して、コミュニケーションを図りやすい雰囲気作りを心がけています。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他施設や医療機関へ移った場合は、サマリー等で情報交換を行っています。退居後も必要に応じて相談や面会を継続しています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者との対話を密にして、思いや希望を把握できるように対応しています。 | 担当制になっているが、全職員が利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望や意向の把握に努めている。また、意向確認が困難な場合は、家族や関係者から聞く等、利用者本位に検討するように配慮している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族や関係機関からの情報を基に、利用者とは対話しながら確認をしています。また、利用開始時は馴染みの物を持って来ていただいています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 1日の行動パターンや心身の状態を観察し、ケース記録に記載しています。変化に応じて、適切な助言や支援を行えるよう、日々の状態を把握できるように努めています。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 利用者や家族の意向をさらに理解するために、コミュニケーション等で知り得た小さな情報や変化でもケアプランに反映させて、より快適な生活を送れるように作成しています。 | 介護計画は利用者本位の個別具体的なものになっており、利用者や家族の意見を聞き取り、課題やケアについて話し合い、現状に合った介護計画を作成している。毎月、定期的にカンファレンスを行い、利用者一人ひとりの介護の内容について検討している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケース記録は身体や精神、病気等により、利用者個々に違う様式になり、情報や変化にすぐ対応できるようになっています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 必要時に応じて、利用者や家族と協力して可能な限り対応できるように配慮しています。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域や町内会員として、様々な情報交換や交流を通して、資源を活用し、楽しめるように対応しています。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者や家族の希望を基に、会社の特性を活かした医療関係との連携を大切に、急変時にも家族へ速やかに対応をしています。 | 入居前のかかりつけ医に継続して受診することが可能となっている。また、訪問診療や訪問歯科があるため、希望があれば受診することができるようになってきている。かかりつけ医の受診する際は家族対応となっており、受診結果については共有している。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 毎日バイタルチェックを基に状態観察を行い、異常の早期発見に努め、医療関係者との情報交換や相談を密にしています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時にサマリーを提供し、情報交換を行っています。家族や関係者と定期的、または状況によって随時話し合い、早期退院に向けて連携を図り、情報交換や相談を密にしています。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化、終末期に対応していません。 | 重度化や終末期対応を行っていないので、入居時にホームの方針を説明している。介護度が上がり、ホームで対応できない時は医療機関等も含めて話し合いを行い、一緒に施設見学に行く等、次の機関へスムーズに繋がるようにしている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時、事故発生時の対応マニュアルを作成し、対応しています。グループホーム内にもAEDを設置しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | ホーム内に非常食や水分を備蓄して、町内において自防捜の協力隊員となり、町民一体となる協力体制を整えています。 | 年2回、職員と利用者が一緒に避難訓練を行い、火災や地震、水害等を想定し、昼夜を問わず避難できる方法を身に付けるように取り組んでいる。町内自防捜の協力隊員であり、地域と密接に協力体制を築いている。また、災害発生時に備えて、3日間分の食料や水のほか、発電機等を用意している。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 日常的に対話を持ちながら、利用者個々の人格尊重を行えるよう、お互いに対応しています。 | 利用者一人ひとりを尊重して「さん」付けで呼んでいるが、利用者の希望がある時は家族にも相談した上で呼び方を決めている。また、利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう、状況に応じて個別に話を聞き、安心して生活を送ることができるように取り組んでいる。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者の希望や思いを聞きながら、発言や意思表示できる環境作りを心がけています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 自分らしく自由に過ごせる時間等を考慮して、快適な生活を送れるように支援しています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 馴染みの美容院がある方は、自発的に出かけています。また、ホーム内にも出張美容院が来苑しています。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者や家族からの好みを聞いて把握して、献立に取り入れ、利用者の状況に合わせて食事の準備や片づけを一緒に行っています。また、職員と利用者が一緒に食事を摂っています。 | 管理者が献立を作成し、利用者の好みに配慮している。地元の食材や献立、郷土料理を提供しており、毎日の食事が楽しみになるよう、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けを行っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | ケース記録に水分や食事を記録し、全職員が把握できるようになっており、それに基づいて声かけや栄養、水分量のコントロールができています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 起床、入床時、毎食後に声かけや見守り、うがい、歯磨き、マウスウォッシュを施行しています。また、歯科医療機関と契約し、定期的に口腔内点検と歯磨き指導を受けています。必要時、相談できる環境になっています。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 定時、随時の排泄支援のほか、誘導や声かけ、見守りの徹底、排泄時の清潔保持を支援しています。状況に応じて病院への受診対応をしています。 | 利用者個々の排泄記録を作成し、必要に応じて定時排泄を促している。パターンに応じて事前誘導を行うほか、その時々の様子を見て声かけをして誘導をする等、自立に向けた支援を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 利用者の運動や水分、食事量、排便リズムをチェックして、スムーズな排便を促し、適切な支援をしています。必要に応じて病院受診もしています。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている | 職員は利用者の入浴習慣を把握しており、意向に合わせて入浴を支援しています。また、ホームは天然温泉で、いつでも入浴が可能となっていますが、入浴剤で温泉めぐり気分を楽しめるようにしています。 | 入浴は個別で、天然温泉のお風呂もあり、選ぶことができるようになっている。基本的に週2回の入浴としているが、いつでも入浴が可能であり、利用者一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴できるよう、利用者個々に応じて支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 利用者の体力を考慮し、適度な運動後に休憩を取るよう支援し、不眠時等には対話や一緒に行動し、入眠を促しています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬剤師による服薬指導や管理を徹底しており、いつでも相談できる環境を整えています。薬の説明書をファイルに綴じており、薬の説明や用量、副作用については、職員間で認識できています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 家事や園芸、買い物等、個人の楽しみに沿った事を提供し、支援しています。趣味やできる事を活かし、大学主催の作品展示会に出展したり、地域や他施設にお披露目できる機会を作っています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 散歩、買い物等、日常的に外出の機会を設けているほか、観光や町会行事への参加等を行っています。外出時は移動距離や身体状況に配慮し、その日に合った支援を提供しています。 | 定期的に遠出する等、外出支援を取り入れている。利用者個々の希望に沿った外出支援にも努めている。利用者の希望を把握して、家族と協力しながら自宅や希望する場所へ出かけられるほか、ホームの敷地で散歩やお茶を楽しむことができる場所も設置しており、気分転換を図れるように取り組んでいる。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 家族や利用者の了解を得た上で、金銭管理をしています。その場合は、利用者の意思に沿った使い方ができるように心がけています。また、希望がある場合は、利用者に管理をしていただいています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望により、電話や手紙等、対応できる環境を作っているほか、利用者も何度となく電話を希望して会話を楽しんでいます。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者の作品を季節毎に作成し、フロアや居室に飾っています。温湿度を確認して、居心地良い温度調整に心がけています。 | ホーム内は掃除が行き届き、温湿度も適切であり、玄関や廊下、居間等は整理整頓をしっかりと、気持ち良く過ごすことができるように配慮している。ホーム内には季節を感じるような飾りつけをしており、利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | フロアの中に1人で過ごせる空間を作ったり、中央フロアに食卓テーブルを配置して、話しやすいように工夫しています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自宅の環境通りにベッドを配置したり、愛用のソファや家具等、馴染みの物を持って来ていただき、生活していただいています。 | 持ち込みは自由であり、入居前に使用していた物を持ち込んでいただいている。居室は利用者や家族と相談しながら整理して、使い慣れた物等を活かし、利用者が居心地良く過ごせるように配慮している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 建物内に利用者が分かりやすい標識やぬいぐるみ等を配置しています。 | | |